



J. FRONT RETAILING

2012年 3月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2012年2月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	2月度	9～2月度累計
百貨店業	0.4（1.1）	1.8（2.4）
スーパーマーケット業	▲5.1	▲6.5
卸売業	5.4	▲1.5
その他事業	▲22.6	▲7.3
連結合計	▲1.0	0.5

（注）百貨店業合計の（ ）内は博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・2月度の百貨店事業の売上高は、気温が平年を下回る日が続いたことにより春物婦人・紳士ファッションの動きが鈍かったものの、梅田店が引き続き大幅に売上を伸ばし牽引したほか、美術・宝飾品など高額品が好調に推移したことに加え、営業日数が閏年のため対前年1日増（ただし休日は▲1日減）となったこともあり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年2.2%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同1.1%増となった。なお、大丸松坂屋百貨店、百貨店事業ともに11ヶ月連続で前年実績を上回った。

2) スーパーマーケット業

- ・ピーコックストアは、首都圏店舗を中心に競合激化が続いたことに加え、閉鎖店舗（みさと店など計3店舗および1事業所）の影響もあり、対前年▲5.1%減となった。なお、関西地区については固定客向け販促が奏功し、既存店ベースでは前年を上回った。地区別では首都圏が対前年▲6.8%減、関西地区が同▲0.5%減、中部地区が▲5.6%減であった。

3) その他

- ・卸売業の大丸興業は、食品、金属樹脂加工品の好調などにより対前年5.4%増となった。
- ・その他事業は、J.フロント建装が前年の梅田店改装工事計上の反動で大きくマイナスとなった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2012年2月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	2月度		9～2月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	▲6.0	▲7.1	▲5.0	▲7.1
大丸 梅田店	69.9	94.2	76.0	103.2
大丸 東京店	▲2.9	1.1	▲0.2	▲0.4
大丸 ららぽーと横浜店	10.5	-	9.0	-
大丸 浦和パルコ店	6.8	-	1.3	-
大丸 京都店	▲3.1	0.5	▲0.8	▲0.3
大丸 山科店	1.8	-	▲0.5	-
大丸 神戸店	▲2.2	▲6.9	▲1.7	▲2.9
大丸 新長田店	▲1.5	-	▲2.8	-
大丸 須磨店	2.8	-	▲1.4	-
大丸 芦屋店	0.3	-	▲0.6	-
大丸 札幌店	0.6	1.9	3.3	3.6
松坂屋 名古屋店	▲4.1	▲1.1	▲0.1	2.8
松坂屋 上野店	3.4	▲2.1	1.5	▲1.9
松坂屋 静岡店	0.8	9.4	▲2.2	9.1
松坂屋 銀座店	▲5.1	▲6.8	▲8.5	▲9.6
松坂屋 高槻店	▲2.1	9.4	▲0.9	6.8
松坂屋 豊田店	2.6	2.0	2.4	0.7
大丸松坂屋百貨店合計	2.2	11.0	3.4	11.7
博多大丸	▲8.1	▲8.8	▲5.3	▲6.5
下関大丸	▲0.1	▲0.6	▲1.9	▲5.8
高知大丸	0.6	0.0	▲1.5	▲0.8
百貨店事業合計	1.1	-	2.4	-

（注）博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く。

前年に博多大丸長崎店を含めた2月度の博多大丸合計は対前年▲14.8%減、百貨店事業合計は同0.4%増。9～2月度累計は、博多大丸合計同▲12.1%減、百貨店事業合計同1.8%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	2月度	9～2月度累計
紳士服・洋品	4.2	4.7
婦人服・洋品	1.4	4.0
子供服・洋品	▲0.3	5.7
その他の衣料品	▲3.6	▲2.2
衣料品計	1.5	3.9
身回品	0.3	4.9
化粧品	4.2	1.7
美術・宝飾・貴金属	17.3	9.2
その他雑貨	▲6.8	▲7.5
雑貨計	8.5	4.1
家具	▲13.6	▲6.3
家電	▲30.6	▲15.1
その他の家庭用品	1.8	5.3
家庭用品計	▲4.2	1.2
生鮮	1.3	▲2.3
菓子	3.9	2.9
惣菜	2.9	5.3
その他食料品	1.4	1.7
食料品計	2.8	2.0
食堂・喫茶	7.5	9.4
サービス	▲13.3	▲15.5
その他	▲0.3	3.7
合計	2.2	3.4

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、天候不順に加え名古屋店改装工事によるマイナス影響があったものの、梅田店増床効果やラグジュアリーブランドの好調が寄与し、前年を上回った。紳士服・洋品は、マフラー、手袋などの防寒アイテムが活発に動いた。身回品は、売場特価のブーツやハンドバッグなどを中心に堅調であった。雑貨は化粧品が好調に推移し、美術・宝飾などの高額品はお得意様向け催事の盛況により2桁増となった。食料品は、梅田店が牽引するとともに各店のバレンタイン商戦も好調であった。